

林野庁 北海道森林管理局
常呂川森林ふれあい推進センター

平成 25 年度年報

オホーツクの『森』から



津別峠の雲海

発刊に当たり

常呂川森林ふれあい推進センターは、平成 25 年度からの国有林野事業の一般会計化に伴い、その役割をわかりやすくするために名称変更（旧名称：常呂川森林環境保全ふれあいセンター）となりました。

常呂川流域を中心に取り組んだ自然再生や森林環境教育の支援など、平成 25 年度の活動内容をまとめましたのでご覧下さい。

自然再生モデル事業の取り組み

＜自然再生モデル事業企画運営協議会＞



オホーツクの森自然再生モデル事業企画運営協議会は、平成17年10月に発足してから毎年行われ、今後の森林の取り扱いを議論するための現地検討会やモデル林での活動が報告されています。

平成18年からは、モニタリング調査を実施し、自然再生が進む森林の状況を把握し

ています。

また、平成19年から樹種転換地域でカミネッコ植樹を実施、平成20年からは、自動撮影装置を設置して野生生物の調査も行っています。

平成25年度は11月と3月に協議会を開催し、溪畔林の取り扱いやストロブ人工林の取り扱いなどを協議しました。

また、モデル林で行われる間伐などの森林整備は、網走中部森林管理署と相談しながら進めることとしました。

自然再生モデル事業が始まって10年を迎え、今後、この森林をどう針広混交林に導いていくかという事が改めて問われています。

ふれあい推進センターとしては、この森を一世代前の針広混交林に近づけるという自然再生モデル事業の最終目標があり、そのための計画を協議会で議論していくこととなります。



＜「森林づくり塾」の結果と今後＞

7月7日と9月29日の2回実施し、7月は植樹の準備（地ごしらえ）を行い、9月にカミネッコ植樹をしました。

「森林づくり塾」では、塾生に森林管理の仕組みや林業という産業の仕組みなど幅広く理解してもらうための座学や植樹・下刈などの林業体験を経験することを通じて森林での仕事の大変さや大切さを幅広く学んでいます。



今回は、若い人の参加者も多かったことから感想を聞いたところ「また、参加したい。」などと前向きな言葉を頂きました。

森林に親んでもらった人の中から森林に興味をもってくれる人が一人でも多くなり、将来的には、ボランティア活動などに参加する人が増えてくれればと願っています。

次年度においても、自然再生の取り組みや国有林の仕事に対する理解は、もちろんのこと、一歩進んで林業という産業（植える－育てる－伐る－加工する）をトータル的に学習するプログラムができないか知恵を出しながら取り組む考えです。



<生長の家 林業体験>



8月3日、今年も「生長の家」の夏季青少年「野外研修」のお手伝いをしました。

今年は、自らが平成19・21・23年に植樹した箇所の手入れを行いました。

植樹した木の成長を促すための下刈作業を行ったり、

動物の食害から守るための防護シートの補修や木の成長に合わせて添え木を設置しました。

その中では、植樹した木が自分の背丈以上に生長しているのを目の当たりにして、自分たちの活動が森づくりに結びついていることに感激していました。

また、午後からは、森林散策を行いました。



平安林道と平安遊歩道を約1時間かけて歩き、森林に生きる植物や動物の説明を聞きながら、クワの実を食べたり、自然の音に耳を傾けたり、五感を活用しながら森林に親しんでいただきました。

<ボランティア団体「オホーツクの会」緑化活動>

9月14日、森林ボランティア「オホーツクの会」による緑化活動（オホーツクの森づくり）を15名で実施しました。

植樹した木の成長を促す下刈作業、動物の食害から守るための防護シートの補修や木の成長に合わせて添え木を設置しました。



また、植えた木の隙間に入り込んだ木の成長を邪魔する草を手作業で取り除いていただきました。



なお、別働隊は、この植樹地域の歩道の草刈も併せて行いました。

平成19年から始めたカミネッコン植樹も200箇所（カミネッコン数はおよそ1300個）を超え、保育作業も大仕事です。

大変暑い日でしたが、みなさんのおかげで作業後は、非常にキレイになりました。



<野生動物自動撮影>

7月、10月の2回実施し、今年度は、6年目にして初めてエゾユキウサギやヤマシギが撮影されました。

また、エゾシカやキタキツネ、エゾクロテンなども撮影されています。

昨年より、エゾタヌキが多く撮影されました。餌になるものが増えてきたのでしょうか。



エゾシカ



エゾタヌキ



キタキツネ



ヤマシギ



エゾクロテン



エゾユキウサギ

※森林総合研究所北海道支所のHP
(<http://cse.ffpri.affrc.go.jp/hiroh/wildlife-monitoring/index.html>)
で、北海道の野生生物の観測結果を見ることができます。

森林環境教育の取り組み

＜日本赤十字北海道看護大学＞

6月6・7日、日本赤十字北海道看護大学から総合科目Ⅰ「北海道の自然と文化」の授業要請を受け、一年生およそ100名を対象に取り組みました。

6日は、大学の教室で「地球温暖化の問題」「森林の果たす役割」などの講義、7日は屋外授業（フィールドワーク）を実施しました。

フィールドワークは、野付牛公園で森林ボランティア「オホーツクの会」の会員6名の協力を得ながら、8グループに分かれて「身近な自然を見つめ直すこと」を目的に行いました。

途中、ネイチャーゲームを交えながら、およそ2時間30分にわたり公園を散策し、植物の生きるための工夫、虫や鳥、動物などとの関わりを学びました。

参加した学生からは「自然にふれあうことができ楽しかった」「普段、何気なく見ているものにも色々な特徴があることを知った」などの感想が寄せられました。



＜ボランティア育樹＞

6月12日、オホーツクの森でアカエゾマツ人工林の枝払いを行いました。

午後からは、平安遊歩道で2班に分かれて森林散策を行い、クリンソウやコウライテンナンショウ（マムシグサ）の花やクマゲラの食痕などを観察し、新緑の中で森林の営み、森林の恵みを楽しみました。

<企業・団体支援>



6月29日、北辰土建(株)の要請を受け、社員・家族、ボーイスカウト北見第2団の子供たちなど20名の参加により、オホーツクの森で林業体験(アカエゾマツ人工林の枝払い)を行いました。

また、作業地までの往復時に、道路沿いの植物の特徴や繁殖するための工夫などを学びました。

森林ボランティア「オホーツクの会」が実施した自然観察会(10月6日「オンネトー」、2月23日「呼人半島」)の活動支援を行いました。

紅葉に染まる秋のオンネトーでは、アカエゾマツの天然林やキノコなどを観察しました。

また、冬の呼人半島では、スノーシューを履いて冬芽などを観察しながら散策、途中でオオワシやオジロワシが頭上で歓迎してくれました。



オンネトー自然観察会

<こども探検隊>

7月28日、森林ボランティア「オホーツクの会」の協力のもと、「オホーツクの森こども探検隊」を行いました。

市内の小学生20名が5班に分かれて森林に入り、「セミの抜け殻」「キツツキの穴」などを探す、トランシーバーで交信などのミッションに挑戦しました。

また、立木などを利用したブランコやターザンロープなどを楽しみました。

午後からは、木の枝を使った工作や葉っぱアートなどに挑戦、夏休みの一日を自然の中で楽しみました。



<佐呂間町子育て講座>

2月15日、佐呂間町教育委員会などの要請を受けて、サロマ湖畔遊歩道で佐呂間町子育て講座「スノーシューで森へ行こう」を小学生などおよそ30名の参加で行いました。

慣れないスノーシューに悪戦苦闘しながら、エゾシカやキタキツネの足跡を観察、途中で雪の上に「大の字」になったり、雪の結晶や木の肌をルーペで見たり、オホーツクの冬を楽しみました。

参加者からは、「ルーペで見た世界はおもしろかった。日頃できないことを体験できて楽しかった。」との感想がありました。



<フィールド見学・意見交換会>

7月11日、オホーツク管内の国有林の職員14名を対象にオホーツクの森のフィールド見学・意見交換会として森林環境教育の「勉強会」を行いました。

これは、各地域で森林とふれあう場の提供や案内が求められていることから、森林環境教育の目的や「森林を楽しみながら理解する」ガイド手法を学ぶ場として実施したもので、参加した職員からは「楽しく学ぶことができた。」「署でも森林教室などを開きたい。今後の仕事に活用できると思う。」などの感想がありました。



常呂川森林ふれあい推進センターでは、学校、企業、団体などの森林づくりや森林散策などの活動支援を行っています。

気軽にお問い合わせ下さい。

その他の取り組み

<パネル展示等でオホーツクの森をPR>

オホーツクの森林・自然や当センターの活動などを知ってもらうため、色々な場所でパネル展示やクラフト作成などの取り組みを行っています。

【緑と花の春の園芸祭】 4月29日 サンドーム北見

【オホーツク木のフェスティバル】

5月17～19日

サンドーム北見

【森へおいでよ！パネル展】

10月4～13日 緑のセンター

【道民森づくり

ネットワークの集い2013】

10月19日 道庁赤れんが前

【みどりネットワーク全体会議】

1月28日

オホーツク総合振興局



オホーツク木のフェスティバル

<ボランティア育樹（枝打ち）>

6月12日、オホーツクの森で端野・常呂小学校、常呂漁協婦人部など175名が参加し、第10回ボランティア育樹としてアカエゾマツ人工林の枝打ち（枝

払い）を行いました。

真夏並みの暑さの中で、慣れないノコの扱いに苦労しましたが、作業終了後のスッキリした森林の様子に満足げでした。

午後からは、森林散策、森林の恵み（山菜）探しに分かれて、新緑のオホーツクの森を楽しみました。



<ボランティア団体への活動支援>



オホーツク森林ボランティア活動報告会

ふれあいセンターでは、森林づくり、森林散策などを行う団体の活動について、講師等の派遣、作業用具等の貸し出し、フィールドの提供などの支援を行っています。

また、12月7日には、市民会館で「オホーツクの森林ボランティア活動報告会」

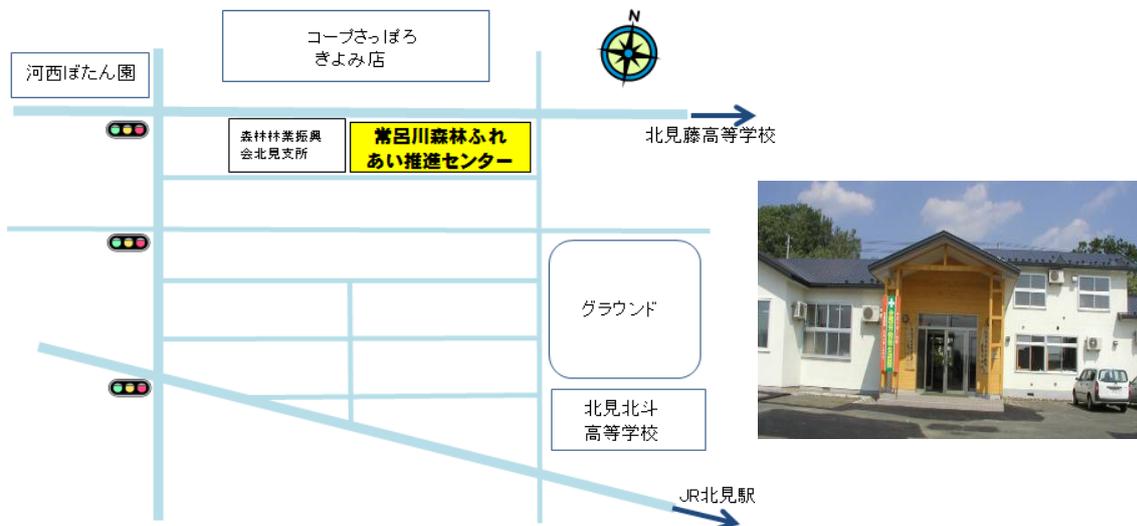
を開催し、管内の森林ボランティア団体の取り組み報告、意見交換を行いました。

<その他>

北見市民植樹祭（5月19日）、緑の街頭募金活動（4月23日）、ワッカ原生花園での外来種（イタチハギ）駆除活動（9月19日）、北見市民環境フォーラムでの講演（11月7日）、北の国・森林づくり技術交流発表会への参加（1月30・31日）など、森林づくりに関わる取り組みや緑の普及活動などの取り組みを進めてきました。



ワッカ原生花園での外来種駆除



北海道森林管理局
常呂川森林ふれあい推進センター
http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/tokorogawa_fc/
090-8588 北海道北見市北斗町3丁目11-3
TEL 0157-23-2960
FAX 0157-26-2144